

開講日	2008年12学期 ※一部集中講義形式 水曜日 18:30-20:30	講義場所	(1/12, 2/11): 医学部研究棟第2会議室、第3会議室、臨床セミナー室、(上記以外): 講義室B	医	技	保
コーディネーター	名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学 教授 古川壽亮			●	●	○
				※●:コア科目、○:選択科目		

科目概要および期待される成果	<p>【概要】20世紀を通じてさまざまな精神療法モデルが提唱されてきた。その中で気分障害や不安障害に対して実際に有効であることを実証され、急速に広がっているのが認知行動療法である。認知行動療法は今や、摂食障害、統合失調症、発達障害などにも有望であることが示されている。21世紀の精神科医にとって認知行動療法を応用できることは自らの臨床を磨くために必須である。</p> <p>【期待される成果】認知行動療法の基本から講義・実習を始め、いくつかの具体的な疾患ごとのプログラムを実習し、最終的には忙しい日常臨床で認知行動療法を応用できる精神科医をめざす</p>
目標とする資格	Certified Cognitive Therapist (Academy of Cognitive Therapy, http://www.academyofct.org)

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
初級: 基本概念と基本技法	1	認知行動療法とは(1)	目標設定の演習 堀越モデルの演習 ダイアログシートによる感情の読み取りの演習 Judith Beckによるセッションの構造化の例	1月12日 ※第2会議室、第3会議室、臨床セミナー室	講師 堀越 勝 筑波大学大学院人間科学総合研究科 教授 古川壽亮 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	2				
	3				
	4				
	5	認知行動療法とは(2)	心理教育のロールプレイ 認知行動モデルによるフォーミュレーションの演習	1月21日	教授 古川壽亮 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	6	認知再構成	思考記録の付け方 Judith Beckによる認知再構成の例	1月28日	教授 古川壽亮 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	7	行動活性化	活動記録表の付け方 Aaron Beckによる活動活性化の例	2月4日	教授 古川壽亮 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	8	ソクラテス式問答	ダイアログシートによる発見的質問の演習 活動記録表からロールプレイ 思考記録からロールプレイ	2月11日 ※第2会議室、第3会議室、臨床セミナー室	講師 堀越 勝 筑波大学大学院人間科学総合研究科 教授 古川壽亮 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	9				
	10				
	11				
中級: 疾患ごとのプログラム	12	パニック障害	パニック障害の治療マニュアルから解説演習	2月18日	医師 船山 正 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	13	社会不安障害	社会不安障害の治療マニュアルから解説演習	2月25日	助教 中野有美 医師 小川 成 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	14	構造化問題解決技法	構造化問題解決の治療マニュアルから解説演習	3月4日	准教授 明智龍男 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学
	15	まとめ		3月11日	教授 古川壽亮 名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学